

早稲田大学 教育学部 日本史 講評

〔総合分析〕

| | |
|--------|---|
| 出題形式 | マーク・記述併用 |
| 試験時間 | 60分 |
| 特徴・その他 | 大問のテーマが見慣れないものでとまどった人が多いかもしれないが、冷静に各小問を見つめ直せば、受験会場で焦っていたことがばかばかしくなるだろう。早稲田で出題されやすい定番問題も多かったし。また、「すべて選べ」タイプの正誤問題がいくつもあって、緊張を強いられる。 |

〔大問別講評〕

| 番号 | 出題内容 | コメント | 難易度 |
|-----|--------------|---|-----|
| I | 古墳文化と大陸文化の伝来 | 3問ある正誤問題は、消去法である程度絞り込みつつも、ダミーの選択肢の正誤判別が難しいので、一発で正解を選ぶ。 | 易 |
| II | 東大寺大仏の歴史 | 問1は難問。しかし、会津八一は早大卒で早大教授となった人物だった。早稲田ではこういうタイプの人物は出題されやすい。もっとも、用語集にも掲載されていない人物をどこまで覚えるかは、判断に苦しむところである。問2はやや難。 | 標準 |
| III | 石田梅岩と二宮尊徳 | 石田梅岩は意外と出題率が高い人物だが、丁寧に学習していなかった受験生が多いだろう。問6は難問。問4・7は正解することは可能だが、ダミーの選択肢を切るのが難しい。問2は史料を読解すれば十分解ける。 | 標準 |
| IV | 大正時代の外交 | 早稲田ではもう何度となく出題されたテーマの問題。問3に笑った人もいるだろう。しかし、問4・7は「すべて選べ」タイプの正誤問題でやや難しい。ただし、コツを知っていると正解しやすくなる。そのコツは授業で伝授します。問6は学習していた人もいるだろうが、大学入試における出題率の観点からすれば難問。 | 標準 |
| V | 岩倉使節団と東京裁判 | これまた定番の岩倉使節団の出題。問1・2は推測で解かざるを得ないやや難しい問題。問4はbはともかく、cが難しい。問5はよく考えれば正解できるが、ダミーの選択肢の判別がしにくく難問。 | やや難 |